

私たちにできること

生命の存続にも関わる重大な危機を避けるために、
大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済構造を見直し
資源を大切に利用し

環境に負荷をかけないライフスタイルに変えていくことが必要です。

また、その際自然の営みを理解し、自然との共生を進めていくことが重要と考えます。

以上のことを踏まえ

今後高知県の森林・木材を活用した資源循環型社会の確立に着手しなければなりません。

そこで、私たちは次のことを提案します。

1 森林の持つ木材生産機能の再認識とPRの実施

提言の第一は、2040年の危機的状況を乗り越えるために森林の生産力と環境保全機能をうまく利用することが有力な手段になるということです。事態はもっと逼迫しており、森林の生産力に頼らざるを得ないというほうが正しいかもしれません。無公害で再生産される木材は、環境に問題を起こすことなく資源の枯渇問題とエネルギー問題、さらには人口爆発に伴う食糧問題の一端を解決する大きな力を持っている素材なのです。

ここで我々がしなければならないことは、現在ややもすれば軽んじられがちな木材生産機能こそ危機打開の強力な手段となることを再認識しなければならないということです。ことに林業関係者はその事を理解し、気概を持って事業を担っていかねばならないでしょう。そして、関係者以外の一般の人々にもPRをし、理解と協力を得ていくことです。2040年、森林の持つ木材生産機能は危機への対処に最も重要な力となります。

2 木材を活用した資源循環型社会の確立

提言の第二は、2040年の危機的状況を乗り越えるには資源循環型社会を構築しなければならないということです。モノの生産や経済活動などの社会の仕組みを資源の枯渇やごみの問題などの発生しない仕組みに変え、その仕組みによって成り立っている社会に変えていかなければならないのです。

この観点からも、森林から生産される木材が脚光を浴びてきます。木材は、これまでの報告のとおり継続的な生産が可能で、しかも環境に対する負荷の極めて少ない素材です。

持続可能な森林から生産するという条件を満足させることによって、その使用は2040年に予想される危機に対処するため極めて有効な手段となります。持続可能な生産体制の整備とそこから生まれる木材を利用した資源循環型社会の構築が、私たちの未来のためにはぜひとも必要なのです。

3 高知県の森に関する有利性を生かした事業展開

森林は、適正な管理を行うことで再生可能な資源を繰り返し生み出すことのできる人類の存続に不可欠な資源です。幸い、日本には先人の努力により豊富な資源が育っており、現在の需要をまかなって余りある大きな供給能力があります。

そもそもわが国は資源の少ない国ですが、森林はその例外的な存在です。わが国で継続して利用できる唯一最大の資源といっても過言ではありません。中でも本県は県土の84%が森林に覆われ、全国的にみても豊富な森林資源を持つ県なのです。

そして、本県にはその資源に立脚した森林や林業、木材加工など関連分野での優れた技術や文化があります。この本県の有効性を生かし積極的な利用を進め、全国に先駆けて2040年へ対応したシステムづくりや人づくりをしていくことがこれからは求められるでしょう。

以上の基本理念を踏まえ、それでは、今から我々は具体的に何をしなければならないのでしょうか。次のこの課題への具体的な対応策の提言を以上のように行います。

森からはじめよう

私たちは、木のメリットを活かし、森林・木質資源の活用による循環型システムを構築するため、以下のことに取り組んでいきます。

- 木をできるだけつかう生活を送り、木の潤いを得るとともに、環境に負荷の少ないライフスタイルを確立しましょう。
- 県民参加による森づくりや都市の緑化を行ない、防災効果や景観を高めるとともに、二酸化炭素の固定量を増やしましょう。
- 貴重な生物の生息する森林などの保護と保全に努めていきましょう。
- 木材生産のほか水源かん養や水資源の確保など、森林のもつ多くの公益的な機能を発揮するため、より環境に配慮した林業を行うとともに、国際競争に勝つ持続可能な林業を目指していきましょう。
- 研究機関や企業等と連携し、環境保全型林業、低コスト林業、公益的機能を高める森林施業技術を研究実証していきましょう。
- 製品や物を製造する際には、製造時のコストだけでなく、生産、加工、利用、廃棄過程の全過程において、環境にどのような負荷やコストがかかるか長期的視点にたって考えていきましょう。
- リサイクル製品の利用を進めましょう。
- 将来の家族構成の変化を考慮し、リフォーム（部材の交換しやすい）、メンテナンス、リサイクルのしやすい家づくりを進めましょう。
- 定期的に住宅診断を実施し、住宅の性能を確認し、メンテナンスを実施しましょう。
- 特に公共的な建物については、メンテナンスやリサイクルなどに配慮した設計や建築を行なっていきましょう。
- リフォームや住宅解体により発生した木材は、住宅建築材として使用可能なものであれば加工し、再利用しましょう。
- 資源を有効に利用するため、長寿命住宅の建築を進めていきましょう。
- より住宅を長持ちさせるため、工法の研究や環境に配慮した材料の処理方法を考えていきましょう。
- 使用する材料を非循環型から木材などの循環型へ転換していきましょう。
- 廃木材で再利用できないものは、できるだけチップなどに加工し、住宅用のボードや土木資材など新たな用途への利用を考えていきましょう。
- 地域からでる農業系、一般ゴミなどとの組み合わせにより、地域資源による再生エネルギー利用を考えていきましょう。
- 地球的視野に立った活動のできる人材づくりを行っていきましょう。
- 学校教育や生涯教育等において、木の良さをPRしていきましょう。